

国際貿易セミナー

参加無料

in 稚内 2015

～稚内からコルサコフへ“夢”を運ぶ～



稚内港

日本最北の拠点港・稚内港はロシア・サハリン州への玄関口であり、サハリン貿易のまさに“最前線”の港です。近年、サハリンへの農水産品の輸出に向け、官民において様々な取り組みが行われており、稚内港から多様な品目がサハリンへ渡るようになりましたが、その一方で、サハリン向けの“継続性のある輸出”が一向に増えない現実にも目を向けなければなりません。

本セミナー第一部では、島根県の国際貿易港・浜田港にてロシア貿易を牽引する高橋克弘氏を、再び講師としてお迎えします。稚内からコルサコフへの輸出拡大に向け、今“やるべきこと”は何か？ 浜田港の事例から学びます。

第二部では、ロシアとの経済交流の第一線で活躍する官民のエキスパートと、サハリンでの農産品販売を目指す生産者が一堂に会し、「農水産品を稚内からサハリンへ！」をテーマに、直面する課題とその先の展望を語ります。

稚内からコルサコフへの安定的な物流ルートの構築に向け、本セミナーがサハリン貿易に挑まれている方々、そして新たに挑戦される方々への“道標”となるはずです。

日時：平成27年11月6日（金）

15:00～17:30（受付開始14:30）

場所：稚内サンホテル（稚内市中央3丁目7-16）

定員100名（定員になり次第、受付終了致します。）

第一部：講演

「ロシア貿易の現状・成果と今後の取り組み」

(株)エル・アイ・ビー 代表取締役
浜田港ロシア貿易拡大プロジェクト実行委員会委員 **高橋 克弘氏**

1943年 島根県浜田市に生まれる
1985年 (株)チューブ設立
1997年 ロシアへ初の輸出(自動車80台)
2006年 ウラジオストクに事務所開設
(株)エル・アイ・ビー設立
2012年 「浜田港ロシア貿易サポートデスク」
運営受託

輸出実績 子供用品・室内ドア・瓦・建材・食料品・野菜
果物・釣り道具・自動車・中古部品・中古建機 等



第二部：パネルディスカッション

「農水産品を稚内からサハリンへ！」

＜パネリスト＞

高橋 克弘氏 (株式会社 エル・アイ・ビー 代表取締役)

吉川 勝氏 (株式会社 北友ストアー 代表取締役)

増茂 聡氏 (ふじくらますも果樹園)

篠原 信之氏 (北海道経済部地域経済局国際経済室 参事)

＜コーディネーター＞

藤原 直樹氏 (稚内港利用促進連絡会議 会長)

お申し込み・お問い合わせ

主催：稚内港利用促進連絡会議
(事務局 TEL：0162-34-8822)

共催：北海道宗谷総合振興局
(地域政策課 TEL：0162-33-2917)

後援：北海道開発局稚内開発建設部 稚内市 稚内商工会議所 日本関税協会稚内地区協議会 稚内日ロ経済交流協会

※裏面の参加申込書にご記入の上、メール又はFAXにてお申し込み下さい。

第二部 パネルディスカッション 「農水産物を稚内からサハリンへ！」

<パネリスト紹介>



■第一部講師 ■パネリスト

たかはし かつひろ
高橋 克弘 氏

(株)エル・アイ・ピー 代表取締役
浜田港ロシア貿易拡大プロジェクト実行委員会 委員

1943年生まれ、島根県浜田市出身。1985年に前身となる(株)チューブを設立し、1997年にウラジオストクへ中古車80台を初めて輸出。以降、ロシア向けの中古車輸出を年間1万台超まで成長させた。2006年にウラジオストクに事務所を開設、また、(株)エル・アイ・ピーを設立し、代表取締役に就任。2008年には、農産物を主とする食品、建材など、中古車以外の輸出を開始した。2012年にはロシア大手船会社のフェスコ社との間で、ウラジオストクと浜田港を結ぶRORO船の定期化を実現。現在、官民で組織された「浜田港ロシア貿易拡大プロジェクト」より、ウラジオストクにある「しまねビジネスサポートセンター」と、浜田港にある「浜田港ロシア貿易サポートデスク」の運営を受託。長年の経験、ノウハウ、ネットワークを活かし、島根県の国際貿易港・浜田港を拠点にロシアと日本の橋渡しを行っている。これまでの輸出実績は、自動車・中古部品・中古建機のほか、子供用品、室内ドア、瓦、建材、食料品、農産品、釣りの道具など、多岐に渡る。



■パネリスト

よしかわ まさる
吉川 勝 氏

(株)北友ストアー 代表取締役
稚内港利用促進連絡会議 理事

1954年生まれ、北海道稚内市出身。1993年に先代より食品スーパー「ホクキューストアー」を引き継ぐ。稚内市内がロシア人船員で賑わう中、1996年にロシア人専門の食品店「サハリンバザール」を開店。ロシア人客のニーズに対応しながら着実に事業を拡大させる。一方、自身もサハリンを訪問。現地からのタマネギの要望に応え、道内より規格外のタマネギなど約7千トンの農産物を集め、1997年に北海道から初の輸出に成功。これをきっかけにサハリンとの定期的な取引が始まった。2003年から2008年には「サハリン2プロジェクト」における日本食輸出に携わる。同プロジェクトではフランス企業がプラント建設作業員の食料を供給していたが、これまでの輸出実績を評価され、この企業と日本食材供給の独占契約を結んだ。これ以降も、現地パートナーと共に貿易上の様々な課題を乗り越えながら、サハリンへの食品供給を継続。最近ではメロンやスイカなどの農産品、マグロやハマチといった水産品など、北海道から初となる輸出に成功している。



■パネリスト

ますも さとし
増茂 聡 氏

ふじくらますも果樹園

1936年生まれ、北海道旭川市出身。1933年に母がりんごの栽培を始め、高校を卒業した1956年に「ふじくらますも果樹園」を引き継ぐ。試行錯誤を重ねながら、1980年に現在の矮性栽培に切り替えを行い、微生物や酵素を使用した健康な土作りにも長年取り組んでいる。多種多様な品種のりんごを低農薬で栽培し、美味しく安心安全な農産品を提供する一方、1988年にはパートナーと共に工場を建設し、全国で初めての紫蘇ジュースや、ハネ品を使用したりんごジュースの生産を開始し、同園の人気商品へと成長させた。2010年に孫の鈴木智哉氏が後継者として同園の経営を引き継いだ。長年の経験で培われた職人の技で今も農園を支えている。2013年には、旭川市が主導した道北物産展(サハリン州ウジノサハリンスク市)に出品し、現地で高い評価を得たほか、2014年には旭川市の試験輸出事業でりんご・千両なしをサハリンへ出荷するなど、近年はサハリンへの輸出にも精力的に取り組んでいる。



■パネリスト

しのはら のぶゆき
篠原 信之 氏

北海道 経済部
地域経済局国際経済室 参事

1961年生まれ、札幌市出身。1985年に北海道庁に入庁後、網走支庁、総務部、根室支庁、企画振興部、道議事事務局などで従事。2013年より経済部国際経済室ロシアグループ主幹、2015年から現職。国際経済室では2013年の知事のサハリン訪問の際に、新たな「友好・経済交流促進プラン」を策定し、食や寒冷地技術のほか健康関連分野の交流に着手。2014年にはサハリンへの通年輸出に向け北海道フェアを年4回開催し、季節毎のニーズ把握を行った。今年(2015)は10月22日から24日まで知事を代表とする経済ミッションによりサハリンを訪問し、新たに就任した州知事との初の知事会談をはじめ、北海道プレゼンテーションや合同会議、北海道フェア、経済産業局との連携による企業商談会などを実施。このミッションを契機に、日露合弁企業が現地に完成させたオフィスビル「北海道センター」へ北海道サハリン事務所を移転すると共に、北海道経済交流支援センターや北海道ショールームを設置し、新たな経済交流の拠点として活用する。



■コーディネーター

ふじわら なおき
藤原 直樹 氏

稚内港利用促進連絡会議 会長
稚内建設機械(株) 代表取締役

1952年生まれ、北海道稚内市出身。1981年に(株)三和重機稚内支店を開設し、90年代後半よりサハリン向けに中古建機の販売を開始。2002年に稚内建設機械(株)の代表取締役に就任以降、数多くの建設資機材をサハリンへ輸出している。2001年に稚内建設協会が日露合弁企業「ワッコール」を設立したが、サポート役として必要な資機材を安定供給し、同社をサハリン有数の建設会社に成長させた。サハリンプロジェクトでは、稚内から機械や人員を派遣して建設基礎工事にも携わった。近年ではロシア本土への建機輸出のほか、輸出代行業務なども行い、更なる輸出拡大に取り組んでいる。他方、サハリンの青少年とのスポーツ交流、民謡アンサンブル招聘などの観光事業、ロシア料理店の経営など、様々な分野で稚内とサハリンを結ぶ活動も行っている。